

特別支援学級在籍児童の「音声付きカード」を活用した 英語学習の実践とその効果

勝井まどか*1・福島耕平*2・下村勉*3
Email: madoka.katsui@gmail.com

- *1: 鈴鹿市立鼓ヶ浦小学校
*2: 鈴鹿市教育委員会
*3: 三重大学

◎Key Words 特別支援教育, 小学校英語, 音声付きカード, タブレット端末

1. はじめに

これまでの小学5・6年生の外国語活動は、歌やゲームなどを通じて英語に親しむ内容が多く、特別支援学級に在籍する児童も楽しく学習に参加できた。しかし、2020年度から実施される新学習指導要領では、外国語活動を3年生から開始、5年生からは教科化され、基本的な「読み」「書き」など中学校の学習内容を一部取り入れることになった。そのため、障害のある児童にとって、英語の読み書きの基礎となる1文を単語毎に区切って考えたり、日本語と語順の違う英語を理解したりすることは大変困難な学習になることが想定される。

これまで筆者らは、iOSアプリ『ロイロノート』を用いて、「文字」の画像ファイルに「音声」を組み合わせた「音声付きカード」を作成し、これらの音声付きカードをつないで文を完成させる教材を開発した。開発した教材を用いて、特別支援学級に在籍する児童を対象に、文作り学習の実践を継続してきた⁽¹⁾⁽²⁾。

従来の紙のカードでは、カードを並べる際、机上からカードが落ちる、カードが重なるなどして、児童の集中力が途切れることがあった。開発した教材では、タブレット端末の1画面上で、全ての音声付きカードを並べて把握することができる。また、音声付きカードをつなげて文を完成させた後、完成させた文を1文として音声で聞くことが可能である。さらにICTを活用しているため、対象児に合わせた教材のカスタマイズも容易にできる。

開発した教材を活用した実践では、児童の集中力が途切れることもなく、語順を並べ替えて意味の通じる文を作るという文作り学習に一定の効果があった⁽¹⁾。また、書き言葉の習得においても、助詞への意識付けに寄与するなどの効果がみられた⁽²⁾。

そこで、2020年度の新学習指導要領の全面実施後、特別支援学級に在籍する児童が直面すると想定される小学校高学年の英語学習の困難さを少しでも緩和するため、小学校高学年の英語学習において、これまで開発・実践してきた音声付きカードの活用を考えた。

2. 研究の目的

本研究では、特別支援学級に在籍する児童を対象とした小学校高学年の英語学習において、音声付きカードを活用した学習が、主体的な学習につながったか、英語学習に音声付きカードが有用であるか検討をおこなった。

3. 研究の方法

3.1 対象児童

本研究の対象児は、特別支援学級に在籍する知的障害のある小学6年生女児である。国語・算数は、個別学習をおこなっているが、その他の教科は、同学年の通常学級で他の児童と共に学習している。

国語・算数の個別学習は、プリントを活用した反復練習によって、定着を図る学習が多い。対象児は、じっくりと考えて答えることが苦手で、本人の思考が求められる課題では、教員の支援を必要とする。言語能力として、2～3語程度の文は、読み書きすることができるが、書字は字形が整わない字がある。会話は、意思疎通に殆ど問題ない。

5年生時の通常学級における外国語活動では、定型の疑問文に対して、物の名称・色等を口頭やイラストを指して答えたり、歌やチャンツの音声教材の視聴と模倣を繰り返したりしながら、楽しく授業に参加することができた。英単語を模倣して発音したり、イラストによって英単語を判断したりする経験はしてきているが、英単語のアルファベットの綴りを意識したり、語順を理解したりすることはできていない。

対象児は、昨年度、音声付きカードを活用した文作り学習に取り組んでいるため、ロイロノートの操作等については理解している。

3.2 実践方法

3.2.1 音声付きカードの作成

音声付きカードの作成には、ロイロノートを使用した。ロイロノートは、タブレット端末の「録音・文字入力」機能で、「音声・文字」を組み合わせた音声付きカードを簡単に作成することができる。

本実践では、日本語と英語の語順の違いを理解しやすくするため、日本文・英文をカードごとに色分けした(図1)。また、色分けの効果や語順の定着をみるために、色分けをしていないカードも作成した。

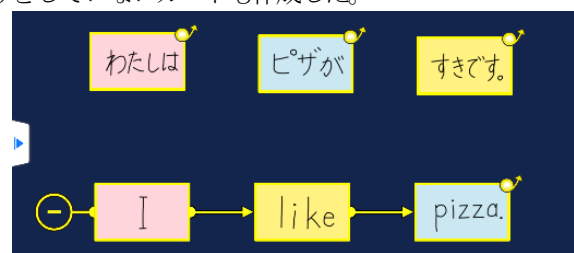


図1 色分けした音声付きカード例

3.2.2 実践の概要

実践は、iPad Proを活用しておこなった。iPad Proを活用した理由は、画面が大きく複数のカードを並べても視認性が高いからである。

実践では、事前に教員が3語文の音声付きカードの問題を6問作成した(表1)。

表1 作成した問題

日本語	英語
私の名前は〇〇です。	My name is 〇〇.
私は元気です。	I am fine.
私はピザが好きです。	I like pizza.
私は英語が好きです。	I like English.
私はバナナが好きです。	I like bananas.
それはピアノです。	It is a piano.

実践は2018年5月に、個別学習の時間を活用し、1回につき15分間のモジュール学習として合計3回おこなった。1回目と2回目は、同一期限内に連続しておこない、3回目は3日後に実践した。実践内容を表2に示す。

表2 実践内容

回数	学習活動
1回目	カードの問題を使って、教員から語順の違いの指導を受けながら、問題に取り組む(色分けカード)。
2回目	1人で問題に取り組む(色分けカード)。
3回目	1人で問題に取り組む(色なしカード)。

3.3 評価方法

本実践における全ての学習活動をビデオで撮影し、録画された児童の様子をもとに検討をおこなった。

4. 結果

各実践において、対象児は6つの問題に取り組む間、集中力が途切れることがなかった。また、対象児のカードの操作を見ることで、児童の思考錯誤の過程を教員が把握することができた。録画されていた児童の様子は、以下の通りであった。

4.1 1回目

- ・ 日本語は、対象児が自分で文を読みながらカードを並べていた。
- ・ 出力される英文音声に合わせて、対象児も一緒に発音していた。
- ・ 英文を並べる際には、まずは、日本語と同じ色順に並べてから、英文の動詞と目的語の順番を入れ替えていた。

4.2 2回目

- ・ 日本語カードの色と英単語カードの色を確認し、最初から正しい順番で英語カードを並べた。
- ・ 繰り返し使われる「I」、「like」を1人で読んでいた。
- ・ 全問、正しく英単語を並べることができた。

4.3 3回目

- ・ 英単語カードを並べる際に、次第に「I」を迷わずに先頭に置くようになった。

- ・ 迷ったときは、英文音声聞いて、「あ、ちがう。」「なんか変。」と言って、カードを並べ直した。
- ・ 「I like ~」のフレーズは、音声聞いた後、自信をもって「OK」と言った。
- ・ 全問、正しく英単語を並べることができた。

5. 考察

迷った時に音声を聞き直して、カードの順番を入れ替える姿がみられた。これは、じっくりと考えることが苦手な対象児が、「もう一度聞きたい」→「再生ボタンを押す」→「確認する」→「OK」または「やり直し」という一連の活動を試行錯誤しながらおこなった結果であり、本実践が対象児の主体的な学びとなっていたことがわかる。

英単語を読めるようになったことから、英単語・英文の音声を出力することができる音声付きカードは、対象児の英単語の「読み」に一定の効果があったといえる。

色分けカードで日本語と英文のカードの色を揃えてから、英文カードの入れ替えをおこなったり、色を頼りに正しくカードを並べたりしたことから、カードの色分けは、英単語を正しく並べることに寄与した。

色なしカードでは、音声を聞いて間違いに気付いた。このことから、対象児は、正しい文のフレーズを繰り返し聞くことによって、間違えた並びの音声に違和感を感じることができたのではないかと推察される。よって音声を出力でき、繰り返し確認できる音声付きカードは、対象児の学習に有用であった。

児童の操作を見ることで、児童の思考錯誤の過程が見え、何に迷っているのか教師にもわかる。このことにより、児童の学習状況に合った支援の声かけや学習ステップの設定を考慮することができる。

6. おわりに

特別支援学級に在籍する児童を対象とした音声付きカードを活用した小学校高学年の英語学習では、以下の2点の可能性を見出せた。

- (1) 音声付きカードの活用は、児童の主体的な学習につながる。
- (2) 音声付きカードの活用は、日本語と英語の語順の違いを理解するのに役立つ。

課題として、本実践では、ポストテスト等をおこなっていないため、対象児の英語の語順理解が本当に定着しているかは、明らかになっていない。今後、実践を継続して効果を確かめたい。

謝辞

本研究は、JSPS 科研費奨励研究(課題番号18H00188)の助成を受けたものです。

参考文献

- (1) 勝井まどか, 福島耕平, 下村勉, 須曾野仁志: “特別支援学級在籍児童の「音声付きカード」を活用した文作り学習”, 第42回全日本教育工学研究協議会全国大会論文集, pp.342-343 (2016).
- (2) 勝井まどか, 福島耕平, 下村勉: “特別支援学級在籍児童の書き言葉習得をねらいとした「音声付きカード」の開発と実践”, CIEC 2017 PC Conference, pp.221-222 (2017).